

平成 25 年 2 月 28 日

各 位

会社名 国際石油開発帝石株式会社
代表者名 代表取締役社長 北村 俊昭
(コード番号 1605 東証第一部)
問合せ先 広報・IR エグゼクティブマネージャー 橘高 公久
電話番号 03-5572-0233

オーストラリア イクシスLNGプロジェクト
建造施設への損害保険手配の完了について

国際石油開発帝石株式会社（以下、当社）は、オーストラリアで操業主体（オペレーター）としてプロジェクトパートナーとともにイクシスLNGプロジェクト（以下、本プロジェクト）の開発作業を進めておりますが、建設工事期間中（2016年末までの予定）における関連建造施設への損害保険の付保を行い、保険証書の受領をもって一切の保険手配手続きが完了しましたので、お知らせします。

このたび付保された損害保険は、イクシスガス・コンデンセート田の海底生産施設（SPS：Subsea Production System）、アンビリカル・ライザー・フローライン（URF：Umbilicals, Risers, Flow lines）、沖合生産・処理施設（CPF：Central Processing Facility）、沖合生産・貯油出荷施設（FPSO：Floating Production, Storage and Offloading）、ダーウィンまでのガス輸送パイプライン（GEP：Gas Export Pipeline）、ダーウィンに建設する天然ガス液化（LNG）プラント等主要な関連建造施設に対する建設期間中の財物損壊リスクや第三者賠償リスク等に対応するものです。

本プロジェクトは世界でも有数の大型LNG開発プロジェクトであり、今回の損害保険の付保は、本プロジェクトの円滑な推進にとって、重要なステップを実現したものと考えております。

今後も当社は、本プロジェクトに関係する地域コミュニティの方々、連邦政府、西豪州政府および北部準州政府等のオーストラリアの関係者やプロジェクト関係者の方々のご理解とご協力を得ながら、このプロジェクトの成功に向けて引き続きまい進して参る所存です。

以上

付保対象建造施設一覧

- 海底生産システム (SPS : Subsea Production System)
- アンビリカル・ライザー・フローライン (URF : Umbilicals, Risers, Flow lines)
- 沖合生産・処理施設 (CPF : Central Processing Facility)
- 沖合生産貯油・出荷施設 (FPSO : Floating Production, Storage and Offloading)
- ダーウィンまでのガス輸送パイプライン(GEP : Gas Export Pipeline)
- ダーウィンに建設する陸上ガス液化(LNG)プラント等

プロジェクト主要施設イメージ図



イクシスLNGプロジェクト

イクシスLNGプロジェクトは、当社が操業主体（オペレーター）としてトータル社、東京ガス、大阪ガス、中部電力および東邦ガスとともに、オーストラリア連邦西豪州沖合に位置するイクシスガス・コンデンセート田より産出される天然ガスを、オーストラリア連邦北部準州のダーウィンに建設するガス液化プラントにて液化し、年間840万トンのLNG（液化天然ガス）および年間160万トンのLPG（液化石油ガス）として生産・出荷するとともに、沖合生産・貯油出荷施設（FPSO : Floating Production, Storage and Offloading）等から日量約10万バレル（ピーク時）のコンデンセートを生産・出荷する大規模なLNGプロジェクトです。

当社は、1998年の公開入札により本プロジェクトが位置する鉱区の探鉱権を取得、その後の探鉱・評価作業や基本設計作業などの開発検討作業を経て2012年1月に本プロジェクト最終投資決定を行いました。現在、2016年末までに生産を開始すべく順次開発作業を実施中です。